

STAGE+を楽しむ(115)(HP 収載)
—ドヴォルザークの交響曲第8番・第9番—

1. 始めに

前報(114)に引き続き、STAGE+のドヴォルザークの交響曲第8番・第9番の演奏の試聴を実施します。

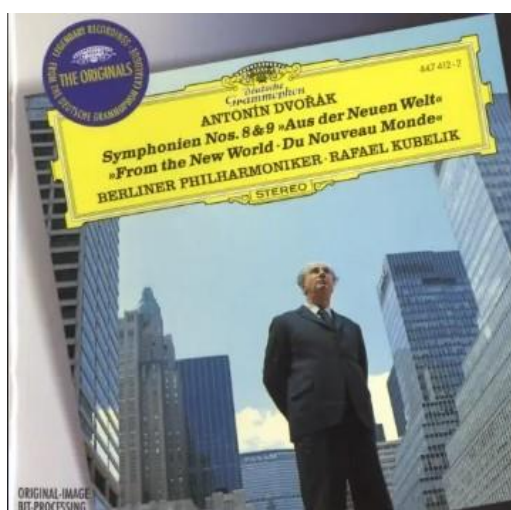
2. 試聴音源

今回は、ドヴォルザークの交響曲第8番・第9番《新世界より》の演奏を選びました。

ラファエル・クーベリック ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団,

アントニン・ドヴォルザーク 交響曲 第8番 ト長調 作品88

アントニン・ドヴォルザーク 交響曲 第9番 ホ短調 作品95 《新世界より》



なお、Universal Music の MQA-CD UCCG-40074 でも同一の収録曲がありますので、比較試聴してみます。

3. 試聴の経過

前回に引き続き、スピーカーアキュライザーの位置を変更し、スピーカーアキュライザーからのバイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PCの2本のLANケーブルにLANアキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpL を接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

STAGE+の方は、配信とは思えないほど、緻密で細かいニュアンスの表現もできており、ドヴォルザークらしい牧歌的な表現からダイナミックな盛り上がりまで飽きさせません。

MQA-CDの方は、概ねSTAGE+と同じですが、次のような音質面での違いがあります。

すなわち、緻密さやディテールの再現は若干後退しますが、響きの良さや押出の強いところがあります。

新世界の第2楽章のような箇所は抒情性の表現でSTAGE+に歩がありますが、盛り上がりの迫力はMQA-CDの方がダイナミックな印象です。

4. まとめ

スピーカーアキュライザーの効果によりSTAGE+の配信とMQA-CDともにグレードがあがっていますが、LANアキュライザーとCrstal EpLの効果により、STAGE+の配信はMQA-CDにない良さもあります。

以上